

P-486 更年期のうつ病に対するホルモン
補充療法の有用性について

国立精神神経センター 国府台病院
木村武彦, 桑野 譲, 神保正利

〔目的〕うつ病は、男性の2倍と女性に多く、20-30人に一人が発症し、精神疾患のなかでも高い頻度で認められ決して稀な疾患ではない。ホルモン補充療法は更年期の精神症状の改善にも有効であることから、更年期のうつ病婦人に対する効果を検討した。〔方法〕対象は、DSM-IV診断でうつ病と診断された外来通院可能な患者8名平均年齢51歳（MD群）と、対照として更年期障害婦人26名平均年齢51歳（CD群）の33名。これら婦人に対し、連続投与によるHRT・ERTを施行し、うつ病に対する効果を検討した。エストロゲンはCEE 0.625 mg/日、プロゲステロゲンはMPA 2.5mg/日を用いた。効果判定は、両群に対し自己評価式抑うつ性尺度(SDS)・更年期指数(MI)の検査用紙を配付し、得られた結果より投与前と投与後12週を比較した。〔成績〕1) CD群で、年齢、モーゼレイ性格検査、SDS、FSH、estradiolなどの背景因子で差の見られない、HRT群12名・ERT群14名での、投与前、12週後のMI、SDS、FSH、estradiolの比較では両群間で差は認められなかった。2) HRT・ERT前のMD群の、MI (22.5 ± 10 SD)・SDS (49.2 ± 7.5)は、CD群のMI (12 ± 9)・SDS (43.4 ± 8.3)より高値であった。12週後には、MD群では、MI (10.3 ± 2.5)・SDS (40.9 ± 11.9)、CD群では、MI (6.6 ± 6.7)・SDS (40.0 ± 10.8)と共に有意に低下し($p < 0.05$)、低下率には差は認められなかった。〔結論〕HRT・ERTの連続投与では、MD群CD群ともにMI、SDSの低下が認められ、外来通院可能な軽症例のうつ病にはホルモン補充療法は有効であると考えられた。これにより向精神病薬の投与量を減量できる可能性が示唆された。

P-487 卵巣癌術後化学療法、及び更年期障害の治療における Korean red ginseng の有用性についての検討

防衛医大
戸出健彦、菊池義公、喜多恒和、平田純子、中田英之、永田一郎

〔目的〕我々はヌードマウスを用いた実験で抗腫瘍活性を有する Korean red ginseng (RG) が chemoprevention の見地から注目されている副腎由来 androgen (DHEA) と比較して、DHEA に勝る抗腫瘍活性を示し chemopreventive agent としての可能性のあることを報告した。DHEA は免疫賦活作用のみならず抗ストレス作用も有し、血中ストレスマーカーとしても注目されている。そこで臨床の場で RG が同様の作用を有するか調べる目的で卵巣癌術後化学療法施行患者 (A 群)、及び更年期障害患者 (B 群) での効果について検討した。〔方法〕1) A 群 (6 例) に CAP 療法施行直後から RG (6g/日) を 3 週間投与した。末梢血中の NK 活性、及び ACTH、Cortisol、DHEA-S の変動を調べた。また、CMI、STAI による心身医学的検討を加えた。2) B 群 (7 例) に RG (6g/日) を 30 日間投与し、自覚症状改善度、及び CMI、STAI により治療効果を判定した。血中 ACTH、Cortisol、DHEA-S、及び β -endorphin の変動を調べた。〔結果〕1) A 群；NK 活性の著明増強 ($p < 0.05$) を認めた。CMI (M-R、I 項目)、及び STAI (A-state) の著明改善 ($p < 0.01$) を認めた。Cortisol/DHEA-S (C/D) 比の減少傾向を認めた。2) B 群；SMI、CMI (M-R、I 項目)、及び STAI (A-state) の著明改善 ($p < 0.01$) を認めた。C/D 比、 β -endorphin の著明減少 ($p < 0.05$) を認めた。〔結論〕RG は臨床の場において著明な免疫賦活作用と抗ストレス作用を有することが示され、さらに chemopreventive agent の可能性も示唆されることから産婦人科において卵巣癌術後化学療法のみならず更年期障害の治療にも有用であることが明らかとなった。